



## アメリカの教育制度

- ・世界ランキングの高い大学が多数ある
- ・イギリスやカナダと比べて、学費のハードルが高い
- ・留学生向けの奨学金を用意している大学が他国よりも多い
- ・入学時に必要とされる英語力はカレッジ・大学により大きく異なる
- ・専攻は主専攻・副専攻が取れるなど、柔軟性のある教育システム

### 大学の概要

#### アメリカの教育制度

私立なども含めるとアメリカの大学数は4,500校を超え、他の国に比べてトップ。日本人が多く行く州立大学だけでも約700校と、2年制の公立大学(コミュニティカレッジ)が約1,100校存在する。入学難易度も様々であり、超難関大学もあれば、比較的簡単に入れる大学もある。

6つの単位認定団体が全米を6つのエリアに分けて管轄し、各大学で履修できる単位を認定する。この制度によってアメリカ国内であれば、日本の公立小中学校のように容易に転校することができる。また、転校の他2年制大学を卒業した後、そこで理由した単位を移行して4年制大学へ編入進学することも一般的な進路になっている。その他、「卒業」というより「単位を履修してそれに応じた学位を取得する」という仕組みにより、主専攻・副専攻といった形で学位を同時に2つ取ることも可能なのが特徴。

#### 「学歴」の考え方

世界トップクラスの研究設備があり、高水準の教育が受けられる大学が多い国だが、アメリカ国内では卒業した大学名で評価されることはあまりない。評価されるのは専攻と成績となる。これは、単位認定制度で統一された基準があるからこそで、大学で何を学んでその分野でどれだけの成績を収めたか、が重要視される。

日本の大学と比べ入学後は、成績を維持するための課題や予習復習など日々の勉強量が多く、入学が簡単で卒業が大変と言われる所以になっている。

#### 4つの教育機関形態

コミュニティカレッジ、リベラルアーツカレッジ、総合大学、専門単科大学という、4つの形態がある。学部課程は1~2年が一般教養、3~4年次が専門課程という点で日本と変わらないが、1年次から卒業の専攻を決めておく必要がなく、在学中に転部や副専攻の追加など自由度が高い。入学試験はなく、ほぼすべての大学は書類選考とそれまでの学業成績で判断される。

#### アメリカへの大学進学がおすすめな理由

アメリカの大学では、転校したり、専攻を主専攻・副専攻と2つ取ったり、途中で変更することが容易にできる。このように柔軟性があるのはアメリカの大学の大きな魅力の一つだ。

またリベラルアーツ系の大学など小規模校になると個別サポートをしてくれるチューターが在籍していたり、少人数制で細やかな指導してくれるため、日本人でもついていきやすい環境がある。

大学1~2年次に一般科目も学びながら、自分の興味関心・将来像について考え、専攻決めをしていきたいという人に向いている教育制度となっている

### 教育制度比較

年齢	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
日本	中学			高校			大学			
アメリカ	Middle School			High School			College		University	
日本から進学する場合	中学			高校			College		University	
							University			
							International Year One	University		

International Year One は英語コースと本科コースを組み合わせたコースとなります。規定の英語力を取得できていれば、4年で学士号を取得することができます。